



佐座礼伊志

ル 4
1149
1





門儿呂4
號 1.145
卷 1-10

秋枕伝漢名所

心ゆく

高井の大銅山

本名大養山

景物 雪鷹湯

筑摩郡大銅山大銅山の側を流す水ありて大銅山とて村あり
これより少しと下流あり又その内なる雪鷹湯等も大銅村大銅山と
て大養の文字書判しりてありて今もその名を承りてあり

夫木集

光俊

もしたりの秋風よまをうりたるれ朝風さびきよの心ゆく

心ゆく

高井の大銅山

今の野原湯

景物 雪鷹山

近々此の秋風を流すの湯ありて心ゆく
と大銅山とてありて今もその名を承りてあり

筑摩郡 花立山

景物 花鳥

小家集

西行

佐濃のふとふりもふりしのくひすはなれとてあそびてあそび

もふりしのくひす

植科郡 植科石井

景物

万葉集

無名

若人のふとふりもふりしのくひすはなれとてあそびてあそび

はな

諏訪郡 穂屋

景物 薄秋風 沖射山 麻

續古今集

經通

庭をのりけのすくすのたれおそくさそ麻も集とてあそび

ちくま川

佐久郡 金峯山 数日の峯 大日堂の例 清水梅之より流き出
小縣郡より更科 植科 水月三井の西郡の境と流れ細石
の國より新沼より入る海不入大所あり 被列して佐濃

川より

本名 筑摩川 中古 千隈川 今 千曲川

景物 桃花 露雪 氷 鷺 麩 芦 雲 苔 細石

筑摩郡松本の降南小同右筑摩川とあり沖金山より流れ出て長
川より入る川とあり更科郡より千曲川と入るれども昔川は千曲川とありて
ちくま川とありて其文字ハ千曲川とありて昭明の列ありて流す一とあり

家集

信濃をもち守の所さく徳石のひまげとめくくおけのむすき

ちかつの宮

佐久郡 近津宮

景物

この宮佐久郡長吉村より余り福福明神の社とていふやうにいつやう故の近津大蛇神と云ふ尺小景をいふ大社あり

家集

誠季

ひさまのひも海へ移もやちうのこゝのこゝの木

ぬのひこ山

佐久郡 市引山

景物

夫木集

よみかた

とち月のこまのひも海へ移しぬのひこ山とていふ

とち月

更科郡 狭捨山

景物 田毎月 春月 霞 櫻 卯花 時鳥 麻 桂木

高根 峯 簾 吾妹 子 狭石 怪石 錫石 太鼓石 雲霧

をを修心は月最よの石めとく小山寺あり狭捨山放光院長樂寺とていふ天台宗あり本尊は正觀音長一尺八寸の善守大師の他勢至一尺余を修持の他正高の額狭捨山の字佐と不玄毫の八分字の書あり又大和也修り

古今集

よみかた

神をかくさあうのつ更科やをを修心ふては月とていふ

とち月のたき

木口石長沼里

景物 鶉 千曲河原

家集

信濃のちうすの川のさくれ原うらふくある長沼の里

かうをたふ

佐久郡中尾谷

景物 紅葉

佐久郡ちうすの川中尾谷のちうすの里に近き二宮の村に毎年秋夜
ちうすの川に長杖の柳の樹を主として京師東武へ送る

中尾家集

通躬

ちうすの川をたふはるのふ捨ひこころのちうすの里

かうをたふ

筑摩郡木曾奈良井谷

景物 鶉

ひかやま

諏訪郡の流れあり伊奈郡の川遠江の里の國境下

酒南海にあり天然のけりりありて名をたふ

景物

万葉集

よみかた

かうをたふはるのふ捨ひこころのちうすの里

かうをたふ

伊那郡 收山 本名 浦見山

景物 梅紅葉 峯 通路

伊那郡法門河原のこま山本村のこま山とて武説少の山に於て後之をこま山と云ふ大なる山あり

家集

よき命下氏

おけりやうれうこのおとんをいふれりふんやうらやう

こうかふ

佐久郡 碓氷山

景物 坂 紅葉

こまの佐久郡上野の白土峯境より碓氷山に別あり又和名も山と云す此の上野と云すれは佐久郡と云すなり又こまの文字法書よりいふに碓氷山白井山碓氷山春居山等前後より音割を以て碓氷古今碓氷の文字不説とせり

百葉集

盤前

ひさすりうすのふと御したふ味くましく早れぬり

くあちの橋

本名 水内曲橋 今 水内橋

景物 紅葉 嵐 高 弥太郎瀧

くあちの橋は八人皇三代推古天皇の御宇にありてけり此の橋は又撞木橋と云ふ

拾遺集

よき命下氏

くあちの橋はくましくましく早れぬり

くまの湯

本名 白糸湯

景物

後拾遺集

重之

くまの湯はくましくましく早れぬり

すこつきの空

筑摩郡木曾孫妻里

今馬籠宿

景物

おせや

佐久郡布施谷

景物 田樹木 榎子 忘草

おせやとは佐久のふはらにありては野原にけく性来の人の傳を
とらふのゆへにまはれとて人皇聖代文武帝の御宇にわけて伝ひ
ふよおせやとたてし流遷りたすけとてしけり榎の伝ひとてしけり
巡りの人ふ布施すといふ名を故小国中十郡にも今布施の村も多し
とて又佐久郡牧布施入施布のふよおせやとてふふありてはまはら
布施の長者といふ百りては屋敷にふありてはとておせやとてふ

新古今集

是則

そのまゝやおせやにせしむ母あはれありとては見えてあはれに

あすけ

高井郡小菅

景物 若菜 菅 山野 鼓流

万葉集

人麿

あすけ所の空の海のふらふらとて白糸あつてふらふらとて

あすけけ

筑摩郡駒箇嶽

景物 呼子鳥 山吹

山家集

西行

あきなりむ本曾のあけ後のあきなる作もさうぬをうと知

あろとあきなり

諏訪郡湖衣箇崎

景物 鮎 鮎

名寄集

よき今あは

位 位あろとあきなりうさうさうんれは富土の上清あまのつりね

あれもあきなり

諏訪郡湖古礼毛我所崎

景物 鮎 鮎

うたふてあきなりぬさあよ衣う崎古礼毛我所崎とふたりのあきなり
陰すふれは湖上二あり一は名あきなりとふつりれ古名を名のと
うさうれは名を名とありたれは今うさうさうとつり

天木集

師氏

諏訪のうさうあれもあきなりうさうあきなりうさうあきなりうさうあきなり

あきなり

佐久郡浅間山

景物 煙 霧 櫻 霞 紅葉 雪 雲 山彦

新古今集

業平

位 位あきなりあきなりあきなりあきなりあきなりあきなりあきなりあきなり

あきなりあきなり

同 嵩

景物 山同

玉吟集

家隆

あさきつねもさふらふもねてあさきつねのなれのみ

あさきつねのみ

同 野良

景物 六日

千載集

清補

つゆあさきつねのなれにをりや新築たともりぬれ

あさきつねのみ

同 里

景物 霞 黄鳥 山野 嶽 烟

六帖集

古今集

あさきつねのなれにをりや新築たともりぬれ

あさきつねのみ

更科郡有明山

景物 花時 月 麻 紅葉 落葉時 雨 村雲 嶺松

續古今集

後鳥羽院所製

はなはなあさきつねのなれにをりや新築たともりぬれ

あさきつねのみ

同 嶺

景物 山同所

所集

後鳥羽院所製

あさきつねのなれにをりや新築たともりぬれ

あさきつねのみ

あつそのふたつとこ子付孫四れてたれ思ふかひ家意ふん

あつその系

同原

景物 野日

名寄集

俊頼

君とあそりやふり系お花つむさうのりしふもあそくたりく

あつその川

小縣郡相初川 又名相深川 又逢初川

景物 石班美 小水鏡 鏡

あつその川は埴科郡ウケ北玉津東の河よりと云川なりと云説あり
又流に於てまの渚泉手うかの小流なりと云ふれも此なり

春雨抄

よと今ふん

信濃のあつその川のまたふこせせむす子の神さし申せ

あつそのせう、

伊那郡會地関 本名 安布知関 又阿知関

景物 橋

安曇郡小今同名ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説あり
伊那郡の會地の関なりと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説あり
又阿知川と云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説あり
又阿知川と云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説あり
又阿知川と云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説ありと云ふ説あり

名寄集

知家

信濃のあつその川のまたふこせせむす子の神さし申せ

あつその山

更科郡更科山

景物月詔 研衣竹寺菊 兎岑 麓里
千載集 隆源

古今月詔 分しとていひけれはるけり

さしりや川

同 川

景物月詔

新勅撰集

よみ人 五ノ凡

今さらばさしりや川の流れをもささりや川とていひけれはるけり

さしりや川の里

高井郡 更級里

景物 八月 待交 詔 江 繫 舩 霰 雪 峠

さしりや川の里 今さらばさしりや川の流れをもささりや川とていひけれはるけり
更級の里ハ高井郡小更級村あり今更級村あり夕月入月の名あり
又望舟江ありむらさき遠洞湖と名けり船あり今更級村小更級村あり
北の里あり並あり船とつあり今更級村小更級村あり
吹津あり今更級の里も更級の里も更級の里も同よりし

さしりや川

筑摩郡 木曾山 本名 岐蘇

景物 櫻花 呼子 夕 霞 晴 夕 月 露 蟬 紅葉 葛

雪吹 雪 小篠 名 晴 雨 霜 駒 坂 棧 松 川 麻 衣 谷

新後拾遺集

頼真

雲も松下に立ちかきしるのありたたりささりや川

三つそりち

同路

景物 山回り 花漬

名寄集

俊頼

三つそりちの極楽より風のそよぎをよみし

三つそりち

同 所坂

景物 山回り

三つそりち平さ下坂のそよぎをよみし山回り十石峠の麓より二十三里にて余と小曾
浩とふ人皇甲乙代元明天皇和開二年庚戌年をよみしひびくまゆかに
地底をよみしなほ坂を越て伊奈谷ふ出飯田より清内谷を通り善光寺馬
籠よりふもと中仙谷とふ所坂へふゆきしとき時をよみしふゆきしとき
ふゆきのそよぎをよみし三つそりちとふゆきしときふゆきしとき又極楽福多石上
松名のみあるとふゆきしときふゆきしとき本曾谷二十三里にて余のち小沢石上村
川橋をよみしとふゆきしとき甚難ふゆきしとき

後拾遺集

能周

三つそりちの極楽より風のそよぎをよみし

三つそりち

同川

景物 山回り 船

夫木集

長明

三つそりちの極楽より風のそよぎをよみし

三つそりち

同 棧

景物 山回り

拾遺集

頼光

中くふひいふたて信濃のうきまちのここのかきたるやあそ

うきまちのうきまち

筑摩郡 桔枝原

景物 桔枝原 白雨 霜雪

家集

よき金太

信濃のついでに部あさちかす京の系累のそよよこやうす

うきまちのうきまち

木内郡 切原 又名 桐原

景物 神牧野 清水

筑摩郡木内郡村すくねをいふとて後まじても名の相違うすし
神牧のうきまちのうきまち又和の字をいふとて木内郡相違村は吉原の
字と相違ありし今相違を言うて清水とて京坂の神社ありし
もとをいふなり

將軍家秋合

義持

あさちかす京の系累のそよよこやうす

うきまちのうきまち

埴科郡 鏡臺山

景物 月

和名よはながけのうきまちのうきまち

前左大臣

あさちかす京の系累のそよよこやうす

うきまちのうきまち

諏訪郡 御射山

景物 薄尾元 秋凡 麻 徳屋

筑摩郡より小野郡へうつり山峠とて西の登り白うきまちのうきまち

春兩抄

かろけすけのすくねのこさぶのりやあつやこさぶのりん

こやこゝろ

飯前郡 宮古井 本名 都井 今天龍井

景物 銀行

こやこゝろの流方ふあり今天龍井のふ毎々晴天の午の時ふ宮殿のま下
てはあ流れお流宿波ふ入て流川の流るる

又木集

為仲

こやこゝろのりやあつやこさぶのりん

こやこゝろ

更科郡 清言川

景物 月幣

こやこゝろのりやあつやこさぶのりん
こやこゝろのりやあつやこさぶのりん
あつやこさぶのりん

六帖

よりん高下

映接の月もめはこやこゝろのりやあつやこさぶのりん

志げ河川

小縣郡 益田川

景物 月 采鞋 岩 船

こやこゝろのりやあつやこさぶのりん
こやこゝろのりやあつやこさぶのりん
あつやこさぶのりん

名寄集

中務郷親王

名寄集のりやあつやこさぶのりん

こやこゝろ

安曇郡清水里

景物

信濃の里に於ては材木ありて是のこまきりては信濃と云ふ或は此の
麻子於てありて不富信濃の里に於てもに安曇郡なる説なり

堰後百首歌合

常陸

ねんたれやあつのまてふ佐助れはあつとハ印ふてわさるるれ

しつものこややく

同 驛

景物

あつみのこややく

筑摩郡信濃御湯

景物 松

信濃の御湯ハ八雲御湯ありて形おつてしつとありての分まで
ふさふさとして武人の虎よき御湯なる湯ありてふさふさとして
たよりなき者考して極すも筑摩郡本曾谷の湯御湯にむす
出湯ありてしつと御湯たしあり本曾谷の湯ふさふさとして御湯ふ
程ちこまきりて是と信濃の御湯とふさふさとしてしつとあり

あつみの湯

信濃路

景物

信濃路ハ何世の路とふさふさとして一國の辻遷行来とてしつとあり
とてあつみの信濃野もしつとあり

万葉集

安曇

秋風集

入道前内大臣

昔年のすけのたごひのけしきも又うらやましくなり

すけのたごひ

伊那郡 菅花野

景物 時鳥 萩 花熊 駒狩

すけのたごひは伊那郡伊豆郡菅花野村をうり昔のころ根三井が
若平の二所別荘をうり菅花野をうり

夫木集

經家

庭のあはれをいふまのなれしけり身そひけり

すけのたごひ

水内郡 裾花川

今 煤花川

景物 花梅 庭葉 世浪 男浪 橋

小家集

西行

こゝろをよそとのまやあはれしすけのたごひと人のあはれ

すけのたごひ

諏訪郡 諏訪湖

景物 月 紅葉 鸚鵡 氷橋 湊 渡門 海山 真泊 船里 旅人

すけのたごひは水内水子川に神祇のまじり人のけしきも平地の如し
依てある詠言のまじり水子のまじり

家集

兼子母

かたはけりしとくなくすけのたごひもよけやあはれなり

すけのたごひ

同 湊

景物 湖 同新

家集

よるゝあふ

よものうらまをのち梅もえ御して詠詠のこめといたをひやあふ

すまのり

同 門

景物 湖回り

夫木集

家長

物あふすまのりもたふ梅人の氷の橋のねとやさやらう

すまのり

同 渡

景物 湖回り

名寄集

西行

さるるり詠詠のそりもあふとよといつと海ふすまのり

以上八十一名 六十二箇所

或記ふ増補秋の麻尾の梅遠とて佐列筑摩の各
志根いと記せし是南ふしやうの各ふり古本秋の麻尾の秋
名ふ玉附又ハ隆真とあふせり詠の増補麻尾の梅ふ書
世は名寄詠ふはとて思

寺の木の園を類の考事

母樹木

をくさくさふかき當ふかきとて古老の樹木ありて多し
しく年深ふし降りしつれの枝葉もわけてお木
をとりし頃親木より似たりありともこれぬ青木枝葉の葉
ありては盤の毛とて黄毛なり大豆粒乃程の葉な
りて枝葉のえ残して是其木より老木の母とて育つ
也にてもいとて一國名あり代のおよぶなり故に信濃
の國のこたす下のを葉とて母ありのともいふ

田毎月

更科の考は六月最上のふりて田新をぬの名ふりて

諸人の知るありてくさくさくは山を裏面おれお石や
つらありて石より産する向ふは地科の流産ぶありて
山の流産のつらふかりて八月十日庚の月乃かりて
姨捨のふりて人の毎月一回ありてつらありて
おしむありてつらありて一同ありてつらありて
つらありてつらありてつらありてつらありてつらありて

陰陽石

ちきりんのつられさるる名は陰陽石ありてなとて
男根石とむらひつられはつらありてつらありてつらありて
女根石ありてつられはつらありてつらありてつらありて
おありてつらありてつらありてつらありてつらありて

新ありし併しちきりなれぬらうとも上六小縣郡より
下六水田を并お境大野とふりてのちありて観音のま
らうりてはまてありしとふは陰をふあひその門の所合
らう下流のまてありしつれの因縁のまは里流ふすを
信ふの神はまてとふとふ和方ありむすふの神のまて
ありしとふ

日中堂

佐久郡相模村小諏訪明神ありし社領三十一石の所由印
地を別當后治正神光寺といふ天台宗ありし社領は
ありしありて三重の塔に建久廿一年癸丑のより十月五日
隆会の水原頼朝公の建立に神光寺の佛本尊三尊

の所由に實之三年甲辰のより七月より大勧進法阿弥のま
湯梵流に弘安二年壬午のより八月より大井光長朝臣の
施をそ介程く後元治文ありしとありてをいそく右
海ありし所由に十間ありし諏訪郡詔言と同し又新名
是年より三年中より七年よりありしとありて毎年七月
二十七日御射正祭りの日別當社人等各々詔言明神の
社壇ふかて神変の式ありしに日中堂の附庭上ふありて
成実の方のそ中より一の早も現成未活の諸人ありて
あれとありし是と早見の神事といふ

見塔影

上の諏訪の社に小普賢堂といふありし堂の版板の禱し宛

ありその穴より紙を垂らしに之重塔ありと云ふなり
堂介へあやるとた森くた樹まじし角く他のいふこと
ありつたてていふ下の証訪ありに之重塔ありと云ふ
とふ其石乃法を埋り長石凡一里余ありわけあり
と云ふ証あり是も無庸と云ふんや

監泉井

伊予郡麻塩村の郡北小塩川と云ふ川あり東の正に流れ
あり西にすくは天龍川へ流るなり此川の名は一箇の
め石なりと云ふ小塩川と云ふなりと云ふ抄所中より一箇
小塩川と云ふ石余ありと云ふなりと云ふなりと云ふなり

水産小塩のめしと云ふ二二井とあるなりと云ふ塩の味乃の味
松永の塩より一倍の味あり村名のものもと
ゆきと云ふなりと云ふなりと云ふなりと云ふなり
浩揚と云ふ今の塩泉寺の境内なり

因曰陸奥のめしと云ふなり今伊予郡麻塩村の海に
元来塩あり自由の里ありと云ふなり一人のむねありと云ふなり
と云ふなり水産のめしと云ふなりと云ふなりと云ふなり
と云ふなり今小塩の里にありと云ふなり用事なりと云ふなり
塩の味なりと云ふなり中真西の人の名なりと云ふなりと云ふなり
と云ふなり小塩のめしと云ふなり大塩の里と云ふなりと云ふなり
と云ふなりと云ふなり

五尺蕨

三井村麻塩の郷に村に元来所科所支死に村に
之置余も里と云ふれしと云ふ小塩ありと云ふなり
長と云ふしと云ふなりと云ふなりと云ふなり

飯の飯より馬が村より死の地はくまへ春之月の中旬
しつとあまのりや長ねの末と知儀を短や人のたけの三歌
とねけり活清しとて公儀へ納りて例せしこれこそ
おふ海しとてお共人の願ふれしとてあまのりし

東京林縫之助藏書

